

---

[研究論文]

# 私立保育所職員の処遇改善に関する アンケート調査

正規職員と非正規職員の回答の比較から

小山優子<sup>1</sup> 大塚桂子<sup>2</sup> 大国久美子<sup>3</sup>

1. 島根県立大学短期大学部保育学科

2. こばと保育園

3. 全国保育問題研究協議会

[ARTICLE]

## A Comparative Study on the Improvement of Working Conditions for Regular Staff and Non-Regular Staff at a Private Nursery School

Yuko KOYAMA<sup>1</sup>, Keiko OTSUKA<sup>2</sup>, Kumiko OGUNI<sup>3</sup>

1. Department of Nursery Education, The University of Shimane Junior College

2. KOBATO Nursery School

3. Society of Research on Child-care and Education Issues in Japan

# しまね 地域共生センター 紀要

*Bulletin of Shimane Center for Enrichment through Community,  
The University of Shimane Junior College*

vol.

# 4

January  
2018



島根県立大学短期大学部  
松江キャンパス

---

[研究論文]

# 私立保育所職員の 処遇改善に関する アンケート調査

## 正規職員と非正規職員の回答の 比較から

小山優子<sup>1</sup> 大塚桂子<sup>2</sup>  
大国久美子<sup>3</sup>

1. 島根県立大学短期大学部保育学科

2. こばと保育園

3. 全国保育問題研究協議会

### キーワード

保育所

処遇改善

正規職員

非正規職員

### [ARTICLE]

## A Comparative Study on the Improvement of Working Conditions for Regular Staff and Non-Regular Staff at a Private Nursery School

Yuko KOYAMA<sup>1</sup>, Keiko OTSUKA<sup>2</sup>,  
Kumiko OGUNI<sup>3</sup>

1. Department of Nursery Education, The University of  
Shimane Junior College

2. KOBATO Nursery School

3. Society of Research on Child-care and Education Issues in  
Japan

### Keywords

nursery school

improvement of working conditions

regular staff

non-regular staff

## 1 はじめに

現在、働く親が子どもを保育所に預けようと思っても入所できない保育所の待機児童問題や、待機児童の多い地域における保育所の増設が進まない現状など、近年の子育て環境には様々な問題がある。保育所が増やせない、または保育所での受け入れ人数が増やせない原因の1つに保育士不足や潜在保育士が活用できていない現状<sup>1)</sup>がある。潜在保育士については、平成25年の保育士登録者数119万人のうち、潜在保育士はおよそ6割にあたる76万人<sup>2)</sup>もいると言われ、資格を持っていても保育所で働いていない保育士が多数存在する。平成28年6月に実施された栃木県の「保育士の就労状況等に係る実態調査」<sup>3)</sup>では、潜在保育士に働く意欲を質問したところ、就労意欲のある者は6割、就労意欲のない者は4割であり、勤労意欲のある者へ希望する勤務形態(複数回答)を聞いたところ、正規職員(フルタイム)36%、非正規職員(非常勤・パート)80%と、圧倒的に非正規を希望する人が多いなど、保育士として働きたいと思わない保育所の職場環境がある。また一言で保育所といっても、公立保育所に比べて私立保育所で働く現職職員の処遇は厳しく、私立保育所では公立に比べて低賃金であったり、昇給制度がないまたは昇給率が低い、労働環境が悪いなどの実態が指摘されている<sup>4)</sup>が、なかなか処遇改善に結びついていない現状がある。

保育士等の処遇改善については、厚生労働省が平成25年度から処遇改善等加算として賃金の改善を図ってきた<sup>5)</sup>。平成25年度には平成24年度比の約3%(月額約9千円)の増額、平成26年度は約5%(月額約15千円)、平成27年度は約7%(月額約21千円)、平成28年度は約8%(月額約26千円)とわずかながら改善の方策を示している。さらに平成29年度については平成24年度比の約10%(月額約32千円)の増額と、技能・経験に着目した更なる処遇改善として最大4万円の処遇改善案を示している<sup>6)</sup>。この最大4万円の増額は、研修を通じた技能の習得によりキャリアアッ

プするシステムで、園長、主任保育士の下に「副主任保育士」と「専門リーダー」を配置し、経験年数概ね7年以上の保育士に複数の分野別の研修を課し、園長や主任保育士を除く保育士等全体の約1/3の職員に処遇改善を行うこと、主任保育士や専門リーダーの下に「職務分野別リーダー」を配置し、経験年数概ね3年以上で複数の研修を課し、月額5千円の処遇改善を図るものである。この他、更なる質の向上の一環として、全職員に対して2%（月額6千円程度）の処遇改善を実施するなど、私立保育所における保育士のキャリアアップの仕組みを構築しようとしている。

このような国を挙げての施策に見られるように、今後は民間保育所の処遇改善が進む可能性はあるが、裏を返せばそれほど私立保育所職員の処遇が悪いことを意味している。例えば、平成27年厚生労働省の賃金構造基本統計調査<sup>7)</sup>によると、保育士の平均年収は平均年齢35歳で323.3万円（平均月収約22万円、賞与約60万円）となっており、全産業平均年収の489.2万円（平均年齢42.3歳）に比べると安い。しかし保育士でも、公立と私立では給与水準が異なり、先ほどの保育士の全国平均年収が323.3万円（同35歳）に対し、東京都練馬区の公立保育所保育士の平均年収は539.1万円（同44歳）<sup>8)</sup>と、公立保育所保育士の給与は低くない。また平成28年4月の大阪市の公立保育所保育士と民間の保育士（役職を持たない一般の保育士）の給与差<sup>9)</sup>は、平均年齢20～29歳で公立月額22.0万円/私立19.7万円、35～39歳で公立33.7万円/私立26.8万円、45～49歳で公立40.2万円/私立33.5万円と、私立保育所の昇給が少なく、給与も低い。さらには保育所には正規職員と非正規職員がおり、非正規職員の中には常勤でありつつも非正規職員の給与である「臨時職員」と、時給制の「パート職員」の職員形態がある。全国保育協議会が2012年に発表した全国保育所実態調査報告書<sup>10)</sup>（公立・私立の認可保育所約2万施設を対象にした調査）によれば、1施設の保育士職員数15.9人中、常勤が13.3人、非常勤は2.6人で、常勤のうち正規

は8.9人、非正規は4.4人とあるように、常勤の勤務形態をとりつつ非正規職員としての給与しかもらっていない職員も1/3ほどいる。また、06年度調査では、常勤保育士のうちの正規は8.8人、非正規は3.6人であったことから、以前よりも常勤非正規職員が増加している現状がある。さらに公立・私立別に見ると、公立は常勤正規が6.6人、常勤非正規が5.2人、私立はそれぞれ11.2人、3.6人となっており、公立の方が私立よりも常勤非正規の割合が高くなっている。このように正規職員に対する非正規職員の増加傾向の中、公立正規職員の処遇の高さに対する、公立保育所臨時職員（常勤非正規職員）、私立保育所正規職員、私立保育所臨時職員（常勤非正規職員）の給与格差の問題があるが、さらに公立・私立を問わず、時給制の給与形態をとっているパート職員の低賃金問題もあり、保育所の中でも複雑な給与格差が生じている現状がある。

以上のように私立保育所の中でも正規職員と非正規職員の間には差があるが、実際にどれほどの差があり、その差を保育所の現職職員はどのように捉えているのかといった調査は見当たらない。それゆえ本調査では、島根県内の8つの私立保育所職員にアンケートを実施し、保育所の正規職員と非正規職員の回答の比較から、雇用形態別の実態について、両者の間の給与格差の実態や、正規職員と非正規職員でどのような処遇改善を望んでいるのかを明らかにすることを本研究の目的とする。なお、本研究で正規職員とは常勤正規職員、非正規職員とは常勤臨時職員とパート職員<sup>11)</sup>とする。

## 2 方法

島根県内の私立保育所8園の正規職員と非正規職員を対象に、平成28年2月から3月にかけてアンケート調査を実施した。対象とした島根県内の私立保育所は、島根県福祉保育労働組合島根支部に所属する8つの保育所である。アンケートの対象者は保育士・看護師・栄養士・調理師と

して働く者で、241人中回答者は137人(回答率56.7%)であった。なお、回答に際しては、個人が特定されないようにデータを数量的に取り扱うことを説明し、データの集計と分析の公表についての同意を得た上で回答をお願いした。

アンケートの内容は、属性(性別、年齢、職種(保育士、看護師、栄養士、調理師)、雇用形態(正規、臨時、パート)、資格、学歴)、勤続年数、組合加入の有無、年収、生活実感、仕事へのやりがい、心身の疲れの度合、仕事をやめたいと思うかどうかとその理由、持ち帰りの仕事量、超過手当について質問した。これらの結果について、正規職員と非正規職員の回答の結果を比較する実態調査とその要因を分析した。また処遇改善に関する自由記述による回答も実施し、回答内容の 카테고리別に分類してその件数を集計した。

### 3 結果

#### 1) 全体結果

##### (1) 回答者の属性

回答者137人のうち、「雇用形態」(図1)は、正規63人、非正規74(臨時12、パート62)人であった。「性別」は女性129(正規56、臨時11、パート62)人、男性8(正7、臨1、パ0)人であった。「年齢」(図2)は、全体の平均年齢が40.42歳、うち正規33.93歳、非正規45.95歳(臨時31.17歳、パート48.81歳)で、20～29歳39(正29、臨6、パ4)人、

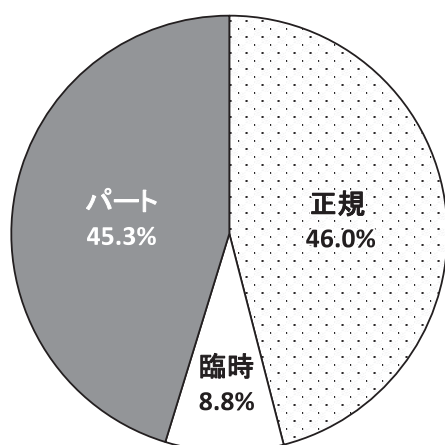


図1. 雇用形態別割合

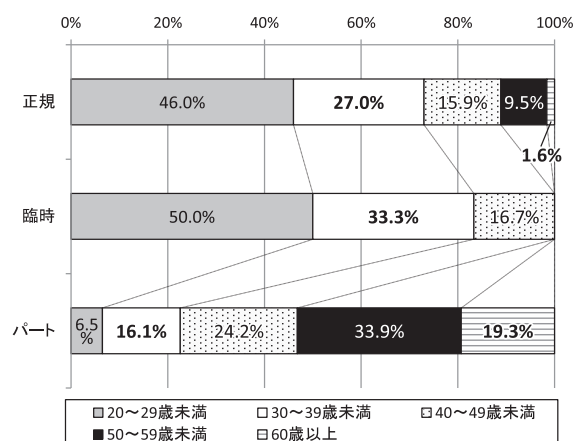


図2. 正規・非正規別年齢構成

30～39歳31(正17、臨4、パ10)人、40～49歳27(正10、臨2、パ15)人、50～59歳27(正6、臨0、パ21)人、60歳以上が13(正1、臨0、パ12)人であった。「職種」は保育士112(正53、臨11、パ48)人、栄養士・調理師17(正8、臨1、パ8)人、看護師4(正0、臨0、パ4)人、その他4(正2、臨0、パ2)人であった。「学歴」は、大学卒10(正5、臨1、パ4)人、短大・専門学校卒117(正54、臨11、パ52)人、高卒7(正2、臨0、パ5)人、不明2人であった。

##### (2) 勤続年数・組合加入の有無

「勤続年数」(図3)は、3年未満が28(正8、臨3、パ17)人、3～5年未満20(正7、臨3、パ10)人、5～10年未満46(正21、臨6、パ19)人、10～15年未満4(正3、臨0、パ1)人、15～20年未満19(正

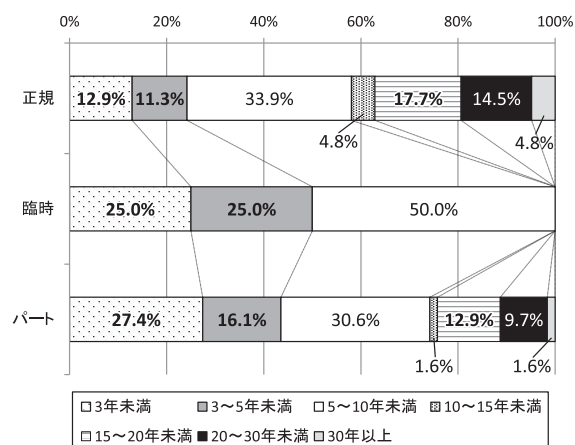


図3. 正規・非正規別勤続年数



11、臨0、パ8)人、20～30年未満15(正9、臨0、パ6)人、30年以上4(正3、臨0、パ1)人、不明1(正0、非1)であった。「組合加入の有無」については、加入76(正規56、臨7、パ13)人、未加入53(正3、臨5、パ45)人、組合がない8(正4、臨0、パ4)人であった。

### (3)年収と生活実感

「年収」(図4)は、50万円未満4(正1、臨0、パ3)人、50～100万円未満17(正2、臨0、パ15)人、100～150万円未満37(正5、臨3、パ29)人、150～200万円未満16(正5、臨4、パ7)人、200～250万円未満20(正10、臨2、パ8)人、250～300万円未満13(正11、臨2、パ0)人、300～400万円未満13(正13、臨パ0)人、400～500万円未満8(正8、臨パ0)人、不明9名であった。これらのうち、正規職員の平均年収は270.2万円、臨時職員の平均年収は106.8万円、パート職員の平均年収は126.6万円であった。なお、臨時とパートを合わせた非正規職員の平均年収は123.6万円であり、正規職員と非正規職員の間で年収に2倍近い差が見られた。

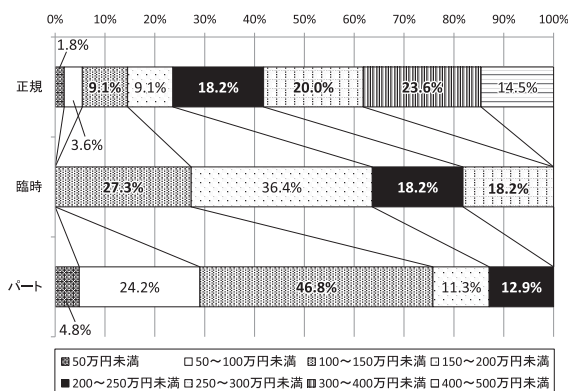


図4. 正規・非正規別年収

「年収に関する生活実感」(図5)についての質問では、かなり苦しいが45(正24、臨3、パ18)人、やや苦しい55(正26、臨6、パ23)人、普通30(正9、臨3、パ18)人、ややゆとりあり2(正0、臨0、パ2)人、かなりゆとりあり0人、不明5名であった。これらのうち、「かなり苦しい」と「やや苦しい」を合わ

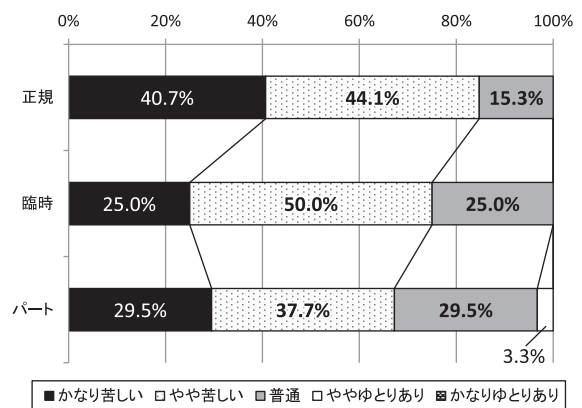


図5. 正規・非正規別年収に関する生活実感

せた回答は、正規職員では正規全体の79.4%、臨時職員75.0%、パート職員66.1%となり、年収に関して「苦しい」と感じている職員が正規も非正規も多い。しかし、正規職員と非正規職員の5件法による年収に関する生活実感の程度について、Wilcoxonの符号付順位検定を行ったところ.034( $p < .05$ )で有意差があり、正規職員と非正規職員の間で年収に関する生活実感に差があることが分かった。

### (4)仕事のやりがい

「仕事のやりがい」(図6)については、とても感じるが53(正27、臨5、パ21)人、やや感じる50(正24、臨4、パ22)人、普通29(正10、臨3、パ16)人、あまり感じない4(正1、臨0、パ3)人、まったく感じない0人、不明1人であった。仕事のやりがいを「とても感じる」5点、「やや感じる」4点、「普通」3点、「あまり感じない」2点、「まったく感じな

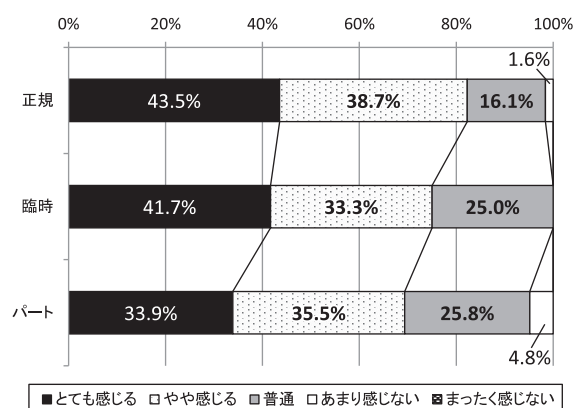


図6. 正規・非正規別仕事のやりがい

い」1点で点数化した正規・非正規別の平均点は、正規職員が4.24(±0.78)点、非正規職員が4.01(±0.88)点であった(正規n=62、非正規n=74)。仕事のやりがいに関する正規と非正規での得点差についてt検定を実施したところ、有意確率は.116となり有意差は見られず(t=1.581、df=134、p>.05)、正規職員と非正規職員の得点に差があるとはいえなかった。

#### (5)仕事をやめたいと思ったかとその理由

「仕事をやめたいと思ったかどうか」(図7)については、いつも思うが8(正7、臨0、パ1)人、時々思う83(正44、臨9、パ30)人、あまり思わない33(正6、臨3、パ24)人、まったく思わない10(正5、臨0、パ5)人、不明3(正1、臨0、パ2)人であった。仕事をやめたいと「いつも思う」「やや思う」を合わせた「やめたい」、仕事をやめたいと「あまり思わない」「まったく思わない」を合わせた「やめたくない」の比率は、正規職員ではやめたいが82.3%、やめたくないが17.7%であるのに対し、非正規職員ではやめたいが55.6%、やめたくないが44.4%であった。この仕事をやめたいかやめたくないかを正規職員と非正規職員で比較したところ、Pearsonの $\chi^2$ 検定で有意確率は.001となり、( $\chi^2=10.90$ 、df=1、p<.05)正規職員と非正規職員の間有意差があるといえる。

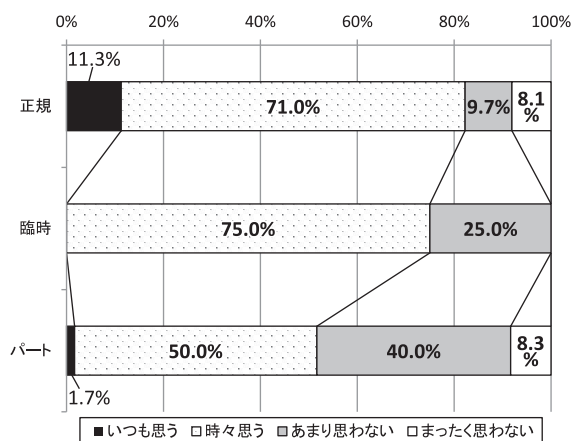


図7. 正規・非正規別仕事をやめたいかどうか

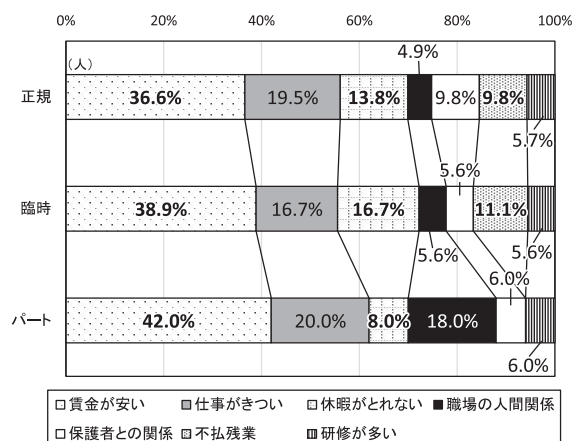


図8. 正規・非正規別仕事をやめたい理由(複数回答)

「仕事をやめたいと思った理由」(図8)を複数回答で答えてもらったところ、賃金が安い73(正45、臨7、パ21)人、仕事がつい37(正24、臨3、パ10)人、休暇がとれない24(正17、臨3、パ4)人、職場の人間関係16(正6、臨1、パ9)人、保護者との関係16(正12、臨1、パ3)人、不払い残業14(正12、臨2、パ0)人、研修が多い11(正7、臨1、パ3)人、その他1人であった。

#### (6)心身の疲れ

「心身の疲れ」(図9)については、とても感じるが44(正30、臨2、パ12)人、時々感じる85(正31、臨10、パ44)人、あまり感じない7(正1、臨0、パ6)人、まったく感じない1(正1)人であった。これらのうち、「とても感じる」と「時々感じる」を合わせた「疲れている」と感じている回答は、正規職員では正規全体の96.8%、臨時職員は100%、パート職員は

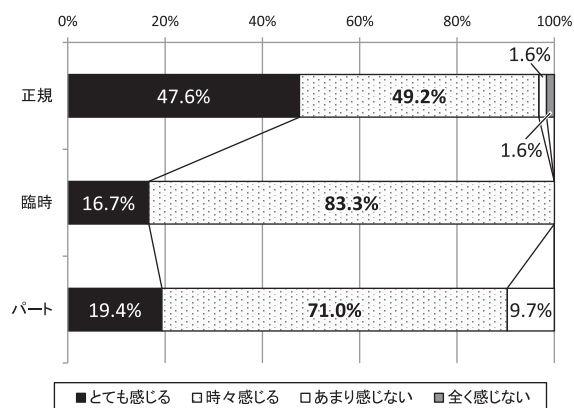


図9. 正規・非正規別心身の疲れ

90.3%となり、心身の疲れを感じている職員が正規も非正規も多い。しかし、正規職員と非正規職員の4件法による疲れの程度について、Wilcoxonの符号付順位検定を行ったところ.000( $p<.05$ )で有意差があり、正規職員と非正規職員の間で心身の疲れの感じ方に差があることが分かった。

(7)持ち帰りの仕事量・超過手当

「勤務時間外の持ち帰りの月平均の仕事量」(図10)については、なしが38(正6、臨2、パ30)人、5時間未満52(正23、臨7、パ22)人、5～10時間未満27(正21、臨0、パ6)人、10～15時間未満9(正9)人、15～20時間未満4(正3、臨1、パ0)人、20～30時間未満3(正3、非0)人、30～40時間未満1(正1)人、不明1人であった。正規職員と非正規職員の超過勤務時間の平均は、正規職員7.5時間、非正規職員1.9時間であり、正規職員にかなりの時間外の超過仕事があることが分かる。また、「超過勤務手当」については、全時間支払が38(正12、臨5、パ21)人、上限あり64(正43、臨5、パ6)人、支払なし3(正1、臨1、パ1)人、わからない20(正4、臨1、パ14)人、不明12(正2、臨0、パ10)人であった。

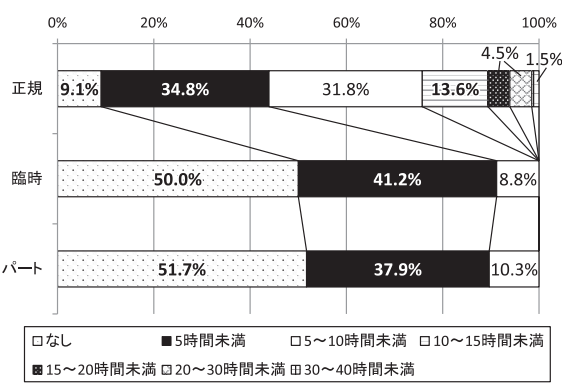


図10. 正規・非正規別持ち帰り仕事量

2) 正規職員の処遇改善に関する自由記述

正規職員に対する処遇改善の自由記述は29人から回答があったが、この内容を賃金、休暇、その他の3つに分類し、件数をまとめた(表1)。正規職員の処遇改善に関する自由記述では、「あこがれの仕事」「子どもの笑顔に救われて今まで

がんばってきたが」と保育という仕事へのやりがい  
を述べながらも、「仕事の量に比べて賃金が低い」「経験年数を重ねても給与が上がらない」「超過勤務に対して賃金を支払うべき」「他職種の賃金を聞くと落ち込む。教師や幼稚園教諭、病院看護師などとの賃金格差をなくしてほしい」「時間外  
の上限が決められており、請求できずボランティアになる」「時間外の研修には手当も必要」などの賃金の低さと時間外の賃金未払い労働に関する記述が圧倒的に多く見られた。また、「休暇がとりにくい」「書類などの持ち帰り仕事が多い」「やりがいは感じるが、やりがいだけでは続けていけない」「休憩時間はあるが連絡帳や事務書類作成、子どもの安全を確認しながらの休憩で、心身ともに休めない」「パート職員が全体の半数近くいるが、正規職員の負担が大きい」「がんばればがんばるほど家庭が犠牲になる」「短大時代に一緒に保育士として就職したほとんどが30代では退職している」「人員不足のため、気兼ねして休みがほしいと言えない」「福祉の社会的地位をあげてほしい」などの記述が見られた。

表1. 正規職員の処遇改善の自由記述

	処遇改善の内容	件数
賃金	賃金が安い、賃金を上げてほしい	21
	時間外勤務(行事、研修等)の手当がほしい	6
	多職種との格差を解消	3
	離職率を改善する処遇	1
休暇	持ち帰りの仕事が多い	5
	休憩時間が心身ともに休めない	2
	休みがとりにくい	1
	正規職員の労働負担が大きい	1
その他	仕事が続けられるか不安	5
	やめたいと思うことがある	1
	がんばるほど家庭が犠牲になる	1
	やりがいはあっても大変さが大きい	1

3) 非正規職員の処遇に関する結果

(1) 非正規職員の給与・待遇

非正規職員のみ、労働時間や時給、勤務手当、非正規の理由、処遇改善について質問した。臨時職員の「月給」は、10万円未満1人、13万

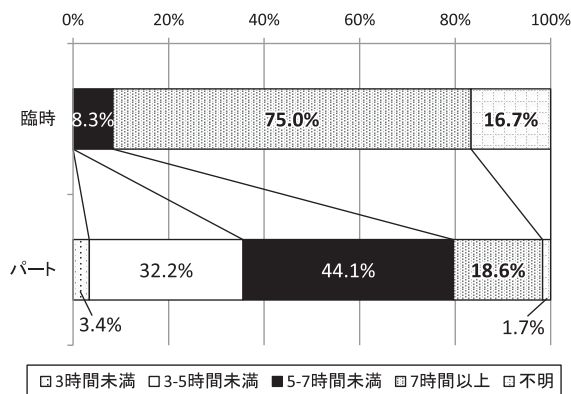


図11. 非正規職員の勤務時間

円未満5人、16万円未満5人、不明1人であった。パート職員の「時給」は平均907円で、最低賃金が850円、最高賃金が1200円であった。

非正規職員の「労働時間」(図11)は、3時間未満2(臨0、パ2)人、3～5時間未満19(臨0、パ19)人、5～7時間未満27(臨1、パ26)人、7時間以上20(臨9、パ11)人、不明3(臨2、パ1)人であった。

勤務手当については、保育士の処遇改善のための一時金または賞与があるかどうかについては、あるが48(臨7、パ41)人、なし11(臨1、パ10)人、不明12(臨3、パ9)人であった。経験加算があるかどうかについては、上がるが13(臨3、パ10)人、上がらないが31(臨3、パ4)人、分からない20(臨5、パ15)人、不明7(臨4、パ3)人であった。特殊業務手当については、つくが13(臨4、パ9)人、つかない27(臨2、パ25)人、分からない23(臨4、パ19)人、不明8(臨2、パ6)人であった。退職金の有無は、あるが15(臨5、パ10)人、なし23(臨0、パ23)人、分からない23(臨5、パ18)人、不明10(臨2、パ8)人であった。慶弔休暇の有無については、ある26(臨7、パ19)人(うち正規より少ない7(臨2、パ5)名)、なし20(臨0、パ20)人、分からない18(臨3、パ15)人、不明7(臨2、パ5)人であった。研修機会については、正規と同じ19(臨6、パ13)人、施設の近辺での研修あり29(臨3、パ26)人、施設内のみ2(臨0、パ2)人、研修なし7(臨0、パ7)人であった。

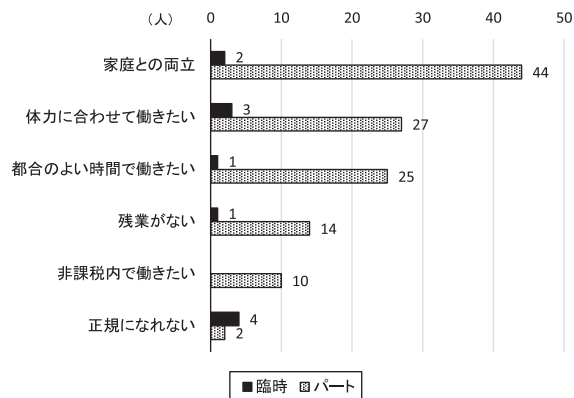


図12. 非正規職員を続ける理由(複数回答)

## (2)非正規職員を続ける理由

「非正規職員をしている理由」(図12)については複数回答で、家庭との両立のため46(臨2、パ44)人、体力に合わせて働きたい30(臨3、パ27)人、都合のいい時間で働きたい26(臨1、パ25)人、残業がない15(臨1、パ14)人、非課税内で働きたい10(臨0、パ10)人、正規になれない6(臨4、パ2)人、その他6人であった。

## (3)非正規職員の処遇改善希望

「非正規職員の処遇改善」(図13)について質問したところ、経験を加味した時給を希望するが27(臨1、パ26)人、賞与や退職金がほしい22(パ22)人、正規との格差を少なくしてほしい15(臨3、パ12)人、雇用継続が不安15(臨2、パ13)人、休暇の充実9(臨2、パ7)人、情報を得たい8(臨1、パ7)人、正規への転換を希望6(臨4、パ2)人、契約勤務時間内に勤務を終えたい6(パ6)人、勤務時間が短すぎる4(パ4)人、研修への参加希望2(パ2)人、勤務時間が長すぎる1(パ1)人であった。

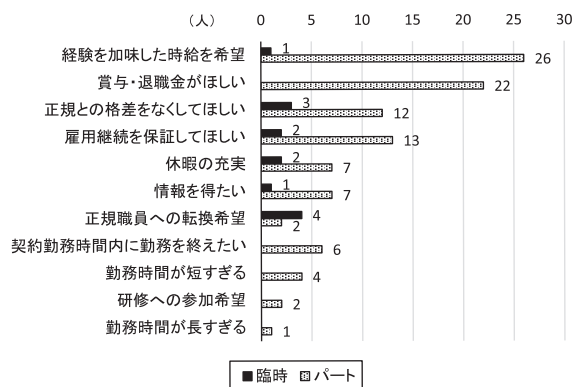


図13. 非正規職員の処遇改善希望(複数回答)



務時間が短すぎる4(パ4)人、研修への参加希望2(パ2)人、勤務時間が長すぎる1(パ1)名であった。

#### (4)非正規職員の処遇改善に関する自由記述

非正規職員に対する処遇改善の自由記述は28人から回答があったが、この内容を賃金等、働きやすさ、働きにくさ、その他の4つに分類し、件数をまとめた(表2)。非正規職員の処遇改善についても、正規職員と同様、賃金の低さに関することが多数であった。「保育士という専門的なすばらしい仕事につけて幸せだと思う」としながらも、具体的には「仕事内容に比べ、時給が低すぎる」「子どもの命を預かる仕事なのに、一般職アルバイトと変わらない時給でなぜかと思う」「経験年数に応じて時給が上がらない」「賞与や特殊業務手当がパートにはつかない」「賃金が低いと言われている保育士の中でも、非正規保育士はさらに過酷な状況に置かれ賃金も低い」「パートにも慶弔休暇、夏季休暇などの有給休暇がほしい」「男性保育士が増える中、一般企業の給与と比べるとこれで家族を養えるのかと他人事ながら心配する」など、仕事量と責任の重さに対する賃金の低さや他職種との賃金格差についての不満が多数

表2. 非正規職員の処遇改善の自由記述

	処遇改善の内容	臨時	パート	合計
賃金等	賃金が安い、時給を上げてほしい	3	10	13
	賞与・退職金等手当がほしい	0	6	6
	経験加算がない	0	4	4
	正規職員との格差を解消	0	4	4
	正規と同じ夏季休暇等ほしい	0	3	3
働きやすさ	休みがとりやすい	0	2	2
	持ち帰り仕事がない	1	1	2
	パートの役割が明確	0	1	1
働きにくさ	忙しい、人手不足	0	3	3
	持ち帰り仕事が多い	0	1	1
	正規と仕事内容を分けてほしい	1	0	1
	園の雰囲気が悪い	0	1	1
	昼間の研修に出たいが出られない	0	1	1
その他	仕事が続けられるか不安	0	2	2
	家庭・子どもとの時間がとれる	0	1	1
	年齢が上がってもパートで働けよい	0	1	1

挙がった。

また園によっては、「正規と同様、書類作成などの業務があるので、時給を上げてほしい」「パートでも仕事内容は行事も研修も残業もありで、書類書き以外はあまり正規と差がないのに、賃金には差があり矛盾を感じる」「非正規職員に労働内容のしわ寄せが来ているので、もっと区別してほしい」「精神的にも肉体的にも酷使しているので、時給を上げてほしい」と正規職員と同じ職務内容を任されながら、正規職員との賃金格差を感じている非正規職員の声があった。一方、「パートには事務文書などの業務がない」「希望する日に休暇がもらえる」「自分の職場では正規とパートの役割がきちんと分担されているので働きやすい」「この園では書類や作り物などの仕事を極力減らし、持ち帰りがないようにしている」「かつて正規職員として働いていたので、60歳を過ぎてもその経験を活かしてパートで働けるのは大変ありがたい」と自園がパート職員として働きやすい環境であることを好意的に受け止めている回答もみられた。しかし、「正規職員は書類書きや責任があり大変。非正規職員は子どもに対する責任は同じであるが賃金はさらに低い。もっと正規も非正規もお互いの苦しいところを認め合い、国や行政に現場の声を上げていくべき」「保育は協力なしでは成立しないので、正規もパートも勤務時間数に関係なく共通理解し、思いやりや感謝の気持ちで保育することが大事」など、正規と非正規で対立せずに処遇改善を訴えていくことを述べている回答も見られた。

## 4 考察

### 1)私立保育所職員の処遇の実態

全国の保育士の平均年収は平均年齢35歳で323.3万円であるが、この調査における正規職員の平均年齢は34歳で、平均年収は270.2万円であり、全国平均と比べても53万円も年収が低い。また正規職員であっても、教師や病院看護師などの対人専門職に比べて相対的に年収が低いと感じており、給与の割に子どもの命を預かる責任と

事務仕事の多さや研修への出席、時間外労働などの仕事量の負担感が大きいことに不満を持っていることがうかがえる。また、正規職員でも経験年数により給与がそれほど上がらない現状や時間外勤務に対する上限が設けられていたりする実態がある。年収に関する生活実感では、正規職員のうち「かなり苦しい」と答えた人が全体の4割近くおり、「かなり苦しい」「やや苦しい」を合わせると84.9%が苦しいと答えていて、保育士の正規職員の給与自体が低いと捉えている。これは保育所で長年働いても給与が上がらない割に責任感や仕事の負担感が増え、賃金に見合っていないと感じているのだと思われる。さらにこの調査では正規職員の超過勤務時間が月平均7.5時間もあり、臨時やパートの持ち帰り仕事が「ない」または「5時間以内」が9割であるのに比べ、「5～10時間未満」が3割、「10～15時間未満」が1割、「15～30時間未満」が1割と、時間外の無給で働かなければならない勤務実態がさらに心身の負担感を増していると考えられる。仕事をやめたいかやめたくないかの質問でも、臨時75%、パート51.7%が「やめたい」と答えたのに対し、正規職員は82.3%とかなり高く、正規職員と非正規職員との間に有意差が見られたことから、正規職員の仕事量に対する低賃金の実態が正規職員をやめる一要因になっていると考えられる。

非正規職員については、平均年齢46歳で、年収は約124万円であり、非正規職員一人で生計を立てるのは困難な収入額である。この調査では臨時職員の年収が106.8万円、パート職員が126.6万円と、パートの方が年収の高かったが、その理由は、臨時職員が20～30代の若手職員であること、パート職員は勤務年数が長い職員やパートの勤務時間が長い職員がいることによると考えられる。しかし、臨時・パートを問わず非正規職員の処遇改善意見の中では6人が「正規職員になりたい」と述べており、正規職員の給与水準でなければ一人で生活していけない実態が垣間見える。臨時職員についてみると、20～30代の勤続年数10年未満の職員が大半であるが、勤務時間

は7時間以上と正規職員と同じであるにも関わらずパートと同等の給与しか得ていないことがわかる。またパートの中には、7時間以上勤務している職員が2割ほどおり、臨時・パートともに持ち帰り仕事が5時間未満と答えた職員が4割ほどいる。これは、パートの職務以上の仕事をしているにも関わらず、パートの時給(平均約907円)しかもらっておらず、仕事量と給与が見合っていないと感じていると考えられる。そのため、処遇改善要望については「経験を加味した時給を希望」「賞与や退職金がほしい」が要望の上位に挙がっていたり、仕事をやめたいと思うかどうかの質問に対し、非正規職員全体の55.1%がやめたいと答えていると思われる。

一方で、保育士をやめたいかどうかの質問では、非正規職員の44.4%がやめたくないと答え、年収に関する生活実感でも、苦しいと答えた正規職員との間に有意差が見られたことから、仕事の時間や仕事量を自分の希望する勤務実態に調整しやすい非正規職員の雇用形態をあえて選ぶことにより、現在の勤務形態に満足している層も3～4割存在することが分かった。これは非正規の場合、夫の扶養範囲で働いていたり、補助的に給与を得ることを目的としてパートで働いているからであると考えられる。

## 2) 正規職員・非正規職員の比較

仕事のやりがいについては、正規・非正規ともに4点以上であり、保育所での仕事にやりがいを感じており、正規と非正規で差がないことが分かる。しかし、待遇の面では、正規職員は責任や仕事量に対する低賃金、一般職や、教師や病院看護師などの他職種との比較からの低賃金に不満を持っており、また、非正規職員よりもさらに強く心身の疲労を感じている。一方、非正規職員については、3～7時間未満の勤務時間の非正規職員が65%であることから、長時間勤務を望まず、希望の時間に調整しながら非正規職員をしていると考えられる。一方、勤務時間が7時間以上の非正規職員が28%もあり、正規職員と同じ勤務時間や職務内容が求められる実態にあるが、正規職

員よりも低い賃金や休暇などの待遇の違いに不満を持っている層が約5割いることが判明した。ここでは、正規職員との処遇に差があるため、職場の雰囲気が悪化・対立する要因になることが分かった。また非正規職員については、仕事をやめたくないと答えた層も約4割いることから、仕事量や勤務時間を意図的に減らしたり調整しながら、家計の補助的に勤務していることを肯定的にとらえている実態もうかがえる。ただし、仕事をやめたくないと肯定的に捉えている層についても、現在勤めている職場環境が非正規職員には事務文書がない、超過勤務や時間外労働、持ち帰り仕事をしない、希望する日に休暇がもらえるなど、正規職員ほどに負担を求めず、非正規職員としての職務内容で働ける職場であることが条件となることが明らかとなった。

## 5 おわりに

島根県福祉保育労働組合島根支部に所属する8つの私立保育所の正規職員・非正規職員に関する処遇とその改善に関するアンケート調査から、実態を探ることを目的に調査を行った。この調査から、全国と比較すると今回の調査対象となった私立保育所の正規職員の給与は低く、さらに非正規職員については生計を立てていくことが困難な給与水準であることが分かった。また、低賃金に加えて、事務文書や製作物の作成の時間外や持ち帰り仕事などに各種賃金の諸手当がつかない、超過勤務や時間外労働のある実態、休暇がとれない、職員の休暇や研修等の重なりによる職場の人手不足で余裕がなくなるなど、職場によっては正規・非正規職員を問わず厳しい職場環境に置かれている実態もあることが分かった。これらの低賃金や仕事量・心身にかかる負担の多さは、正規職員については、教員や看護師などの

他の対人援助職種に比べて給与が安く、仕事量と賃金が見合っていないと感じており、やめたいと思っている正規職員が全体の8割もいる。一方、9割の臨時職員と2割のパート職員は、正規職員と同じ長時間勤務や同じ責任・仕事量のまま、賃金は臨時扱いの月給やパート扱いの低い時給で、非正規には手当がつかない、有給休暇がとれないといった処遇のため、正規職員と比べて仕事量と賃金が見合っていないと感じ、正規と同じ処遇改善への要望または非正規から正規への登用変更を要望していると考えられる。本来、正規職員と非正規職員は協力し合わなければ職場が円滑に運営できないが、これらの正規・非正規職員の待遇の格差が両者の対立構造・関係悪化を生み出し、お互いに働きにくくなる状況を導く要因になることが明らかとなった。

自由記述の中には、もともと正規職員であったが現在は非正規職員で働いている場合などもあり、責任が重く過酷な正規職員の勤務には戻れないといった意識が働き、あえて非正規職員を選んで働いている実態も浮き彫りとなった。また今回の調査では、正規職員・非正規職員ともに、40代・50代が全体の各19.7%、60代が全体の9.5%も占めており、経験年数を重ねたベテラン職員が厳しい処遇や勤務実態の中でも、保育のやりがいを感じながら保育所職員として働き続けていることが明らかとなった。しかし、保育所職員の善意に頼るのではなく、正規・非正規に関わらず保育士全体の処遇改善を図りながら、保育所で長く働き続けたいと思える、恒常的な体制づくりが必要であると思われる。

## 謝辞

本アンケートへの回答にご協力くださいました島根県福祉保育労働組合島根支部所属の保育所職員の皆様に感謝申し上げます。

## 付記

本稿は、平成28年8月20日に開催された第48回保育  
団体合同研修会 in 島根における口頭発表をもとに、分

析方法を一部変更して結果をまとめ、考察したものである。  
この変更後の論文の掲載については、島根県福祉保育  
労働組合島根支部より了承を得ている。

## 注

- 1) 平成23年度厚生労働省委託事業「保育士の再就職支援に関する報告書」平成23年12月
- 2) 厚生労働省「保育士等に関する資料」第3回保育士等確保対策検討会、2015年12月
- 3) 『保育情報』477巻、2016年、5-8頁
- 4) 平成23年度厚生労働省委託事業「保育士の再就職支援に関する報告書 データ集」平成23年12月
- 5) 厚生労働省「保育士等の処遇改善案」2017年1月24日、予算対策常任委員会資料
- 6) 厚生労働省「保育対策関係予算の概要」2017年1月24日、予算対策常任委員会資料
- 7) 厚生労働省「平成27年 賃金構造基本統計調査」

- 8) 東京都練馬区総務部職員課「平成27年度練馬区人事行政の運営等の状況の公表」
- 9) 大阪市「保育士民間給与実態調査について」平成28年4月
- 10) 『厚生福祉』2291号、2013年、2-7頁
- 11) 非正規職員のうちの臨時職員とは、常勤非正規扱いの職員で、日給月給の形態と賞与その他手当あり・なしの場合も含む給与形態であり、パート職員とは時給制の給与形態をとっている場合が多い。勤務・給与形態の違いにより、「常勤・非常勤」「正規・非正規」に分類され、非常勤非正規職員のうち給与形態の違いにより「臨時職員」と「パート職員」に分けられるが、呼び方は全国的に統一されていない。

受稿：平成29年10月2日 受理：平成29年11月10日






# しまね 地域共生 センター

*Shimane Center  
for Enrichment through Community,  
The University of Shimane  
Junior College*



島根県立大学短期大学部  
松江キャンパス

 文部科学省  
地(知)の拠点